

# はじめに



## ～木津川市セカンドステージの始まり～

新型コロナウイルス感染症がようやく落ち着きをみせ、市民の皆様の生活や、社会経済活動がコロナ禍前に戻りつつあります。しかしながら、日本経済は、物価高騰という新たな課題に直面していることや、令和6（2024）年1月の能登半島地震などの自然災害により、私たちの身近なところで、日々の生活に不安が増しており、最も身近な基礎自治体の役割に期待が高まっていると認識しています。

全国的な人口減少への転換が始まってから、約10年余りが経過しました。木津川市は、これまで人口増加が進んできましたが、近年は、横ばいや減少傾向となり、いよいよ木津川市においても、人口減少への転換期が到来しようとしています。この局面に対応するために、デジタル技術の活用や、私自身が、市民の皆様のお声を直接聴く機会などを設け、効率的で効果的な市政運営を進めてまいりたいと考えています。

この第2次木津川市総合計画後期基本計画は、新たな取組みとして子育て支援施策の一層の充実や、こどもの教育環境の整備強化、人口減少を見据えた施策や地域防災力の向上、脱炭素に向けた施策の推進などを掲げています。

また、限られた財源のなかで、選択と集中を行い、最少の経費で最大の効果を上げることを基本として、将来にわたり、持続可能で最適化された行政運営を進めることで、各施策を着実に進めてまいります。

令和6（2024）年度は、市制施行後18年目に入ります。これまでの市政を、木津川市ファーストステージと、本計画は次のセカンドステージと捉えて、古からの歴史を受け継ぎながら、自然、文化、人、産業などの資源を活かし、これからの5年間のまちづくりを推進してまいります。

結びに、本計画の策定にあたり、市民・中学生アンケート調査やパブリックコメントなどにおきまして、貴重なご意見やご提言をいただきました多くの皆様をはじめ、それぞれのお立場から、活発なご議論をいただきました総合計画審議会委員、市議会議員、地域長の皆様方に心から感謝とお礼を申し上げます。

令和6（2024）年3月

京都府木津川市長

谷口 雄一



# 目次

## 総論

1 総合計画とは.....	2
(1) 計画策定の趣旨 .....	2
(2) 計画の位置づけ .....	2
(3) まち・ひと・しごと創生総合戦略との関係 .....	2
(4) 構成と期間 .....	3
(5) 後期基本計画策定の視点 .....	4
2 計画の背景.....	5
(1) 木津川市の概況 .....	5
(2) まちづくりの歩み .....	8
(3) 木津川市を取り巻く環境変化への対応 .....	13

## 基本構想

1 まちづくりの基本原則.....	20
2 まちの将来像.....	21
3 人口と都市構造.....	22
(1) 将来人口 .....	22
(2) 将来都市構造 .....	23
4 将来都市構造における拠点、ゾーン、軸の考え方.....	24
5 まちづくりの基本方針.....	26
(1) 取組みの姿勢 .....	26
(2) 基本方針 .....	27

## 基本計画

1 基本計画の構成.....	32
2 分野別計画.....	33
基本方針1 とともに「学び」「喜び」「成長し」未来を生きるこどもを育むまちづくり .....	35
政策分野1 子育て.....	36
政策分野2 教育.....	43
基本方針2 誰もが生き生きと、生涯元気で暮らせるまちづくり .....	51
政策分野3 健康.....	52
政策分野4 福祉.....	58
政策分野5 文化.....	66



基本方針 3 一人ひとりが認め合い、力を発揮できるまちづくり .....	69
政策分野 6 共生 .....	70
政策分野 7 協働 .....	75
基本方針 4 人・資源・立地を活かし、未来を拓く産業のまちづくり .....	79
政策分野 8 観光交流 .....	80
政策分野 9 産業・雇用 .....	85
政策分野 10 関西文化学術研究都市 .....	91
基本方針 5 災害などから市民を守り、安心・安全に暮らせるまちづくり .....	97
政策分野 11 防災・減災 .....	98
政策分野 12 防犯・交通安全 .....	103
基本方針 6 快適で住みよい生活環境と、豊かな自然に恵まれたまちづくり .....	107
政策分野 13 都市基盤 .....	108
政策分野 14 交通ネットワーク .....	114
政策分野 15 自然・環境 .....	118
基本方針 7 効果的・効率的な行政運営と市民に開かれたまちづくり .....	125
政策分野 16 情報 .....	126
政策分野 17 行財政運営 .....	130
<b>3 計画の推進 .....</b>	<b>139</b>
(1) 財政収支見通しに基づく推進 .....	139
(2) 進行管理 .....	141
<b>資 料</b>	
SDGs と総合計画 .....	148
用語解説 .....	152
木津川市総合計画審議会条例 .....	162
審議会委員 .....	163
策定経過 .....	164
策定体制図 .....	166
諮問 .....	167
答申 .....	167
統計データ .....	168

- 本文中、\*印のある語句については、巻末の用語解説に説明を示しています。
- 図表の数値は、四捨五入のため内訳の合計と総数が一致しない場合があります。
- 所管課は令和 6（2024）年 4 月の名称で表記しています。





---

總

論

---

# 総合計画とは

## (1) 計画策定の趣旨

木津川市では、平成 21（2009）年 3 月に「水・緑・歴史が薫る文化創造都市～ひとが耀き ともに創る 豊かな未来～」を将来像とする「木津川市総合計画」、平成 31（2019）年 3 月には、「子どもの笑顔が未来に続く 幸せ実感都市 木津川」を将来像とする「第 2 次木津川市総合計画」を策定し、「情報共有の原則」「参加・参画の原則」「協働の原則」の 3 つのまちづくりを基本原則と定め、市民と行政が基本となる考え方を共有しながら、持続可能なまちづくりを進めてきました。

しかしながら、第 2 次総合計画策定後も、地方自治体を取り巻く社会環境は、地域経済の回復が依然として厳しいなか、急速な少子・高齢化社会への転換や「SDGs 17 のゴール」に向けた取組みの推進など、急激に変化しています。また、新型コロナウイルス感染症の経験を踏まえた「新しい生活様式」やデジタル化の進展もあって、市民のライフスタイルや価値観はますます多様化し、健康・保健、安心・安全などの分野への関心も高まっており、行政ニーズも高度化・複雑化しています。今後も、最先端の科学技術を有する関西文化学術研究都市\*、多くの国宝をはじめとする歴史・文化、緑豊かな自然環境などの地域資源などを最大限に活かし、より豊かで魅力的なまちに飛躍するとともに、持続可能な行財政運営を目指した計画的なまちづくりの取組みを進める必要があります。

「第 2 次総合計画後期基本計画」は、「第 2 次木津川市総合計画」に基づくまちづくりを着実に継承することを基本に社会や時代の変化に柔軟に対応し、円滑な行財政運営を進めるため、前期基本計画における 5 年間の進捗状況を検証するとともに、今後 5 年間に取り組むべき施策や事業の基本方向を示すために策定するものです。

## (2) 計画の位置づけ

総合計画は、木津川市のまちづくりを進めるうえで、将来像を具体化するための方針、取組みの基本的な方向を示すものであり、市民と行政のまちづくりの指針となります。

行財政運営においては、その最も上位に位置づけられる計画として、各政策分野の個別計画と調整を図りながら、施策全体を体系化し、効果的に進捗管理を行う役割を担っています。

## (3) まち・ひと・しごと創生総合戦略との関係

木津川市では、東京圏への一極集中の是正や多極化、全国的な人口減少に対応するため、平成 27（2015）年 10 月に「第 1 期木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。さらに令和 2（2020）年度には、「第 2 期木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、子育て支援の充実や地域活性化などに取り組んだことで、子育て世代を中心とした転入が進み、令和 4（2022）年 9 月には人口 8 万人に到達しました。

このように木津川市の人口は平成 19（2007）年の市制施行以降、増加の一途をたどっていきま

たが、増加傾向も一定落ち着きを見せ、今後は人口減少に転じることが見込まれます。

また、国において、令和4（2022）年度に「デジタル田園都市国家構想総合戦略」が策定された状況を受け、木津川市においても、「第2期木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を1年前倒した計画を策定し、デジタル技術の活用により行政サービスのスマート化\*などを進め、木津川市の行政課題の解決に取り組むこととします。

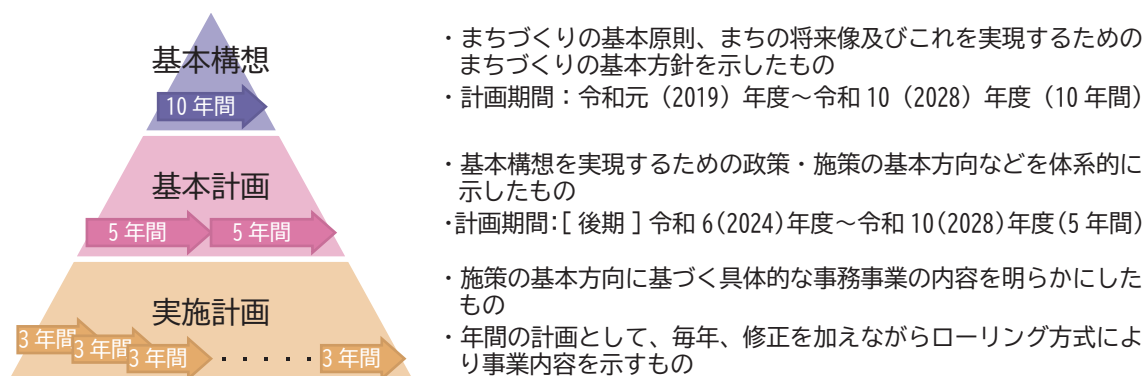
「第2次木津川市総合計画後期基本計画」は、木津川市の最上位の計画であり、前述の総合戦略や「第4次木津川市行財政改革行動計画」と併せて推進することで、本格化する人口減少対策や地方創生\*の深化への対応はもとより、豊かで魅力的なまちづくりの取組みに資するものとなります。

## (4) 構成と期間

第2次木津川市総合計画は、基本構想、基本計画、実施計画の三層で構成し、その計画期間は、令和元（2019）年度から令和10（2028）年度までの10年間です。なお、急激な社会経済情勢の変化などが生じた場合は、必要に応じて柔軟な見直しを行います。

<b>基本構想</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● まちづくりの基本原則、まちの将来像及びこれを実現するための基本方針を示したもの</li> <li>● 計画期間：令和元（2019）年度から令和10（2028）年度まで（10年間）</li> </ul>
<b>基本計画</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 基本構想を実現するための政策・施策の基本方向などを体系的に示したもの</li> <li>● 計画期間：[後期] 令和6（2024）年度から令和10（2028）年度まで（5年間）</li> </ul>
<b>実施計画</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本計画で示す施策の基本方向に基づく具体的な事務事業の内容を明らかにしたもの</li> <li>● 年間の計画として、毎年、修正を加えながらローリング方式*により事業内容を示すもの</li> </ul>

### 総合計画の構成・期間



## (5) 後期基本計画策定の視点

後期基本計画は、以下の視点に基づき策定します。

### 現行の基本構想に基づく計画策定

第2次総合計画の前半5年が経過し社会状況の変化もみられますが、基本構想については10年を軸としてとらえ、現行のまちづくりの基本原則や将来像、基本方針に基づき後期基本計画を策定します。

### 市民との協働による計画策定

市民と行政が共有するまちづくりの指針として市民との協働による計画づくりを進めるため、審議会への市民委員参加や審議経過の情報公開、計画案のパブリックコメント、また市民アンケート調査などにより、広く市民の意見を把握し計画に反映します。

### 実現性・実効性のある計画策定

前期基本計画の進捗状況を検証、評価するとともに、市を取り巻く社会状況を把握して課題を明確化し、これを踏まえて必要な見直しを行い、実施効果・有効性の高い施策を選択します。

市民や職員にわかりやすく、また施策実効性を適正に評価するため、前期基本計画に掲げた成果指標の達成状況を踏まえた目標項目や目標値を設定します。

### SDGsと関連した計画策定

持続可能な社会づくりのための国際社会共通の目標であるSDGsの視点を取り入れ、SDGsと総合計画の施策目標と関連づけることでローカルSDGsの達成を目指します。



# 2 計画の背景

## (1) 木津川市の概況

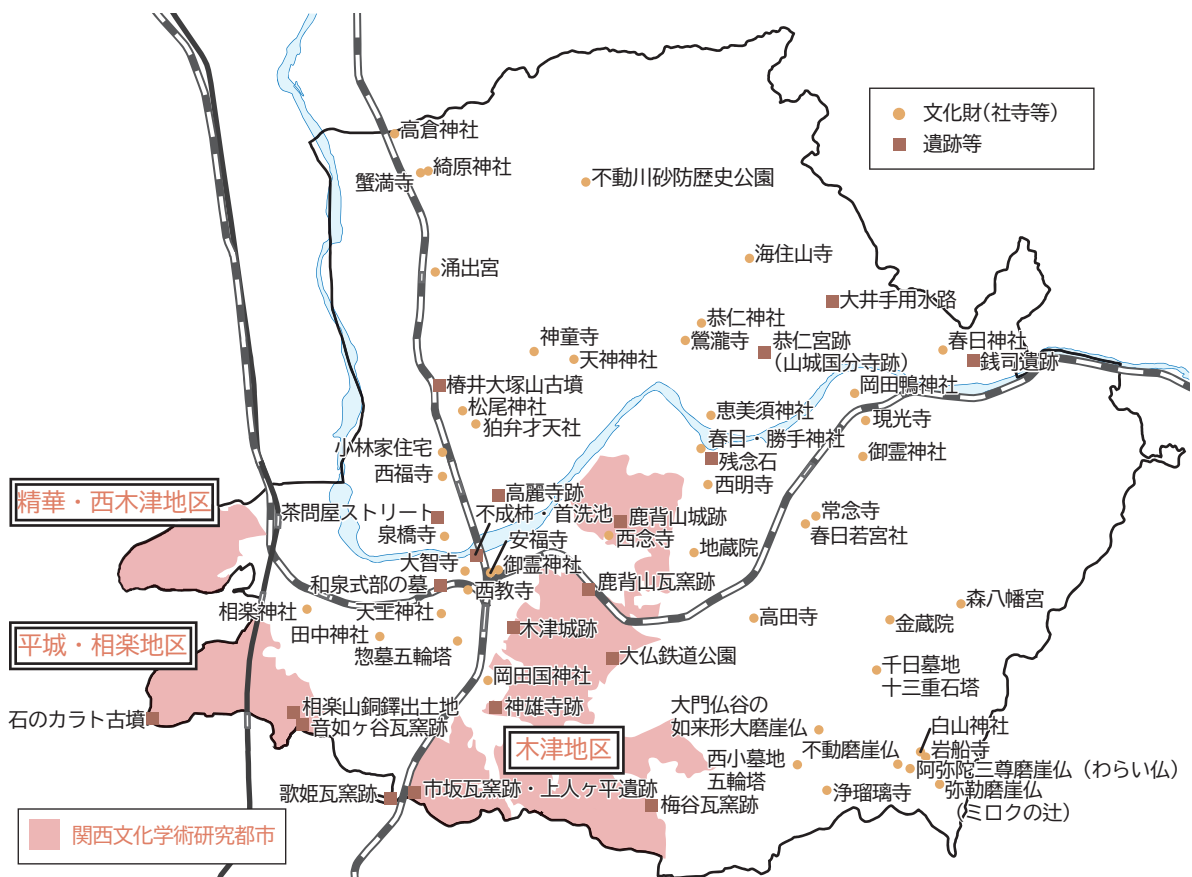
### いにしえ 古から関西文化学術研究都市\*までの新旧文化が調和するまち

木津川市は、京都府南部の山城地域にあり、南は奈良県奈良市と接し、市の中央には木津川の清流が東西に流れています。木津川は、淀川を通して瀬戸内海に通じているため、古来より東アジアの国々につながり、人や物資、文化が伝わってきました。

天平12(740)年12月、聖武天皇は、この地に「恭仁京」を造営し、数年という短い期間ではありましたが、日本の首都となった時期がありました。その後、時代を経るなかで、農産物の生産拡大、仏教信仰の寺院や霊地の形成、特産品(お茶など)を扱う商業活動などが活発化し、発展してきました。近年は、国家的プロジェクトとして関西文化学術研究都市の開発が進められ、木津川市はその中核地として新たな発展が期待されています。

このように、木津川市は、古からの永い歴史を受け継ぎながら、新たな発展の時期を迎えた新旧文化が調和したまちといえます。

### 木津川市の主な文化財・遺構及び関西文化学術研究都市の整備地区



## 関西文化学術研究都市の中核地として、先端的な学術、産業、暮らしが展開されるまち

関西文化学術研究都市の建設は、京都、大阪、奈良の3府県にまたがる京阪奈丘陵において、国家的プロジェクトとして文化・学術・研究の新しい拠点づくりを目指して、「関西文化学術研究都市建設促進法」の公布・施行（昭和62（1987）年）によりスタートしました。

関西文化学術研究都市は、産・学・官の協力と連携のもとで建設が進み、現在では世界的な学術研究機関や国際的な交流拠点が次々と完成し、150を超える研究施設などが整備されています。

木津川市にも、公益財団法人国際高等研究所（I I A S）、公益財団法人地球環境産業技術研究機構（R I T E）をはじめとする多くの研究施設が整備され、また、住宅や都市基盤整備も進み、緑豊かな都市環境のなか、活発な研究活動、潤いのある住民生活が営まれています。

このように、木津川市は、関西文化学術研究都市の中核地として、先端的な学術、産業、暮らしが展開されるまちとなっています。



公益財団法人地球環境産業技術研究機構（R I T E）

## 京都、大阪、奈良への交通結節点となり交流の盛んなまち

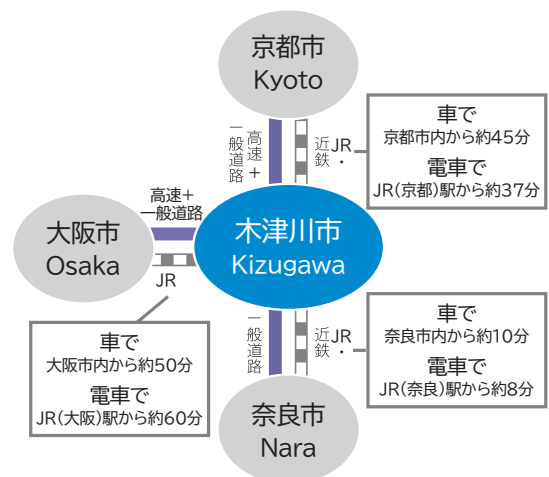
木津川市は、京都・大阪の中心部から30 km圏内に位置しています。

鉄道は、JRにより木津駅を中心に、関西本線、奈良線、片町線で京都、大阪、奈良、三重方面と結ばれており、また、市の西部を南北に走る近鉄により京都、大阪、奈良方面と結ばれています。

道路は、市の中央部を国道24号が南北方向に、国道163号が東西方向に整備されており、広域幹線道路として位置づけられています。また、市の西部には京奈和自動車道も整備されるなど、国道24号及び国道163号などの交通混雑の緩和と関西文化学術研究都市間のアクセス向上が図られています。

このように、木津川市は、京都、大阪、奈良の中間に位置しながら、交通環境に恵まれており、古くから現在に至るまで交通の要衝として、各方面との交流が盛んなまちとして発展してきました。

### 周辺都市へのアクセス時間



## 里地里山、木津川などの豊かな自然に恵まれた産業や文化のあるまち

木津川市は、平地部の田園、周囲の山々、丘陵部の木々、木津川などから構成される里地里山など豊かな自然に恵まれています。また、史跡や遺跡、伝統行事などの有形無形の歴史的文化遗产も豊富にあり、今でも木津川市の魅力を高めるうえで重要な資源となっています。

さらに、古くから米、麦などとともにお茶やタケノコなどの農産物が生産されており、それら

の主産地として発展を続け、今日の都市近郊農業の基盤を形成してきました。特に「お茶」は、木津川水運の地の利を活かし、幕末から明治にかけて輸出が増大し、「お茶」の集散地、精製加工の場として発展してきました。また、江戸時代の高級麻織物の技術を活かした「相楽（さがなか）木綿」は、京都府域最大の産地として昭和初期まで栄え、現在のふすま地、壁紙の生産につながっています。



上狛の茶問屋

このように、木津川市は、里地里山、木津川などの豊かな自然に恵まれた環境のなかで、多くの特産物や名産品などの地域産業を生み出し、現代につながる産業基盤を形成してきました。

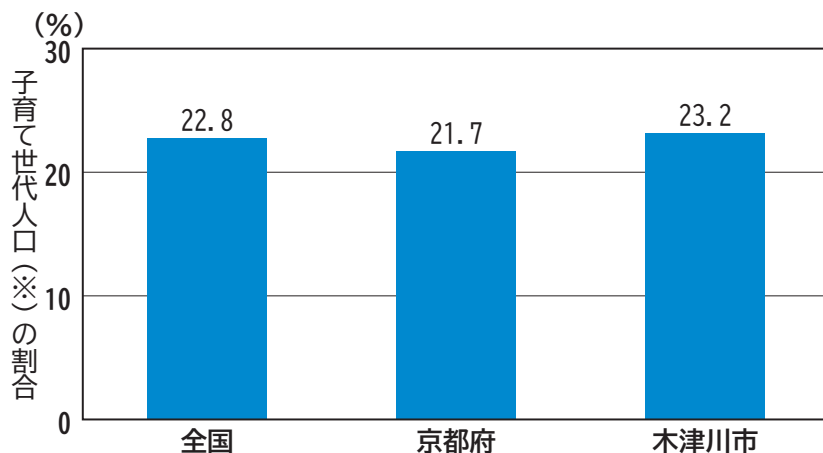
## 魅力ある住環境を背景に、人口が増加し子育て世代の多いまち

全国的に人口減少が懸念されるなか、木津川市の人口は増加し続け、子育て世代に選ばれるまちとなりました。

その理由としては、温暖で水や緑などの豊かな自然環境、豊かな歴史・文化遺産、大阪市や京都市にほど近く、奈良市とも近接するなど日常生活面での利便性の高さのほか、関西文化学術研究都市の中核地として多くの研究施設や大型商業施設が立地するとともに、大規模な住宅地が多く整備されるなど、良質で魅力的な住環境が形成されてきたことによるものと考えられます。

さらに、これまで「子育て支援No.1」のまちを目指し、待機児童ゼロの実現やサポート体制の強化など子育て支援策などの充実が図られたことから、令和2（2020）年の総人口に占める子育て世代（25～44歳）人口の割合は、国の22.8%、京都府の21.7%と比べて、木津川市は23.2%と高くなっています。

子育て世代人口の比率



※子育て世代（25～44歳）

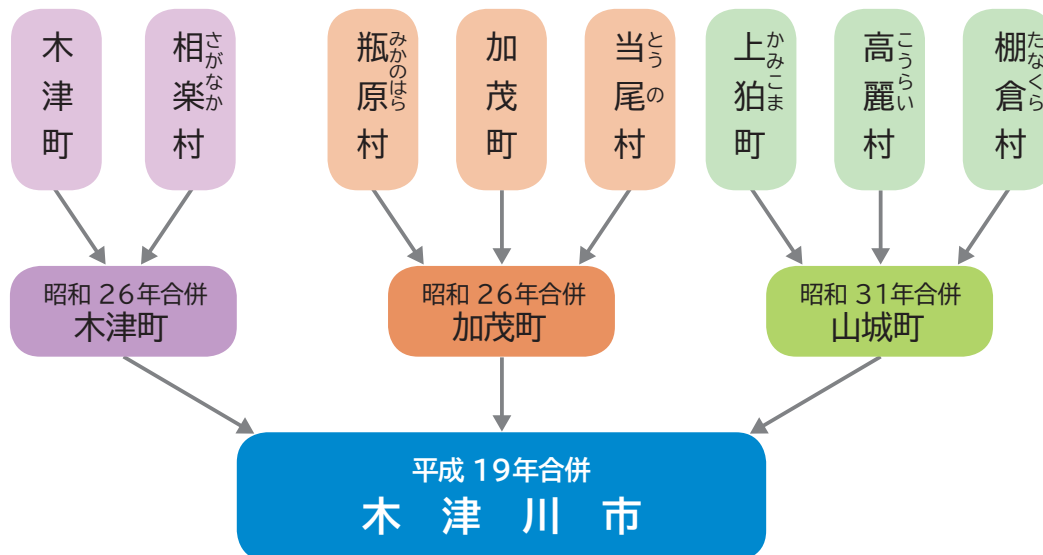
資料：「令和2年国勢調査結果」（総務省統計局）

## (2) まちづくりの歩み

### ① 木津川市の誕生

木津川市の歴史は古く、明治時代の市町村制により生まれた町・村は合併を繰り返し、昭和 26 (1951) ~ 31 (1956) 年の昭和の大合併により、木津町、加茂町、山城町の 3 町となりました。そして、約 60 年後の平成 19 (2007) 年には、3 町合併によって、木津川市が誕生しました。

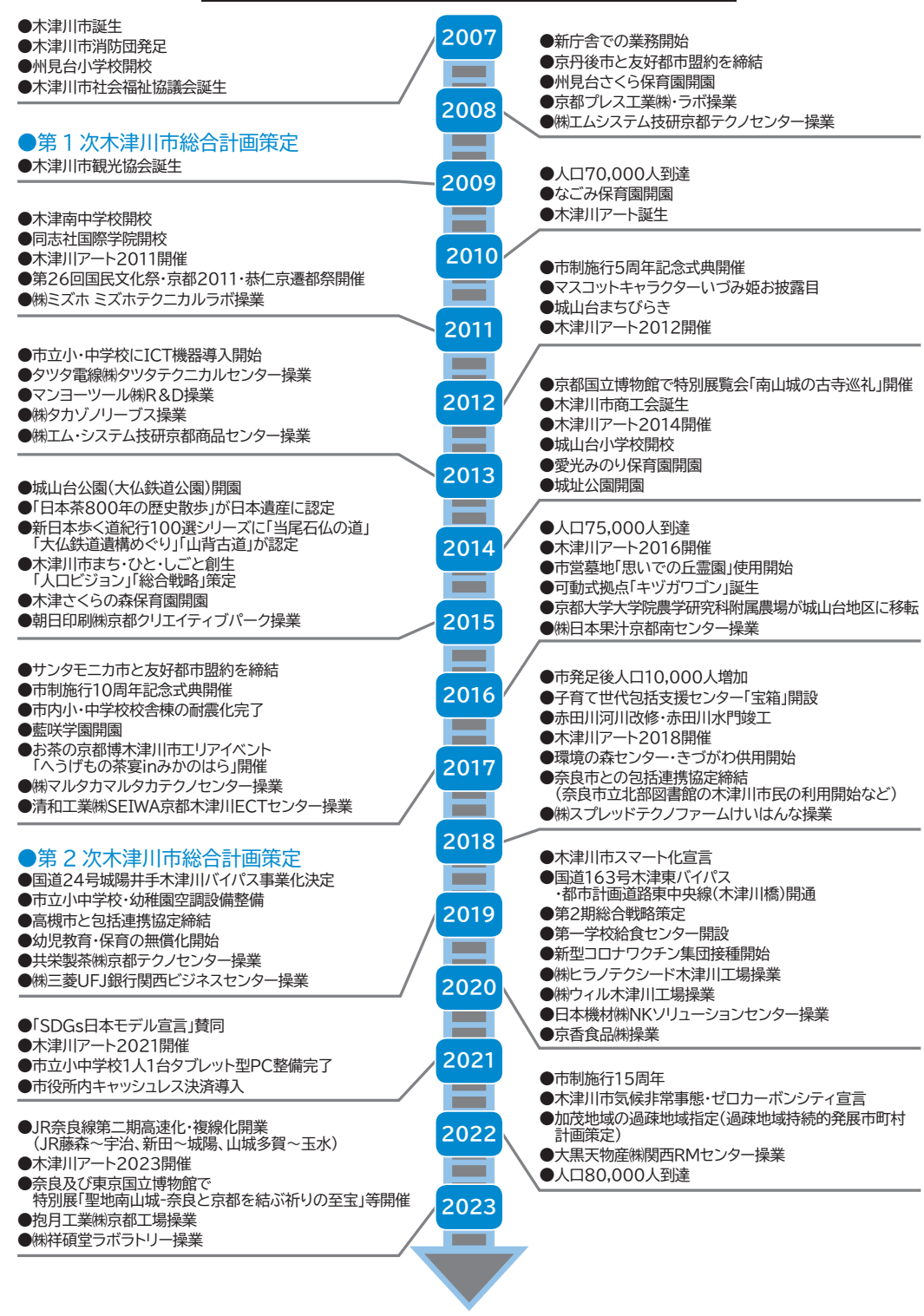
木津川市誕生までの町村合併の経緯



## ② 第1次木津川市総合計画～第2次木津川市総合計画前期計画期間のまちづくり

木津川市発足から2年後の平成21(2009)年には第1次木津川市総合計画を策定、平成31(2019)年3月には第2次木津川市総合計画を策定し、個性と魅力にあふれた一体的なまちづくりを進めてきました。

### 木津川市誕生から現在までのまちづくりの動き



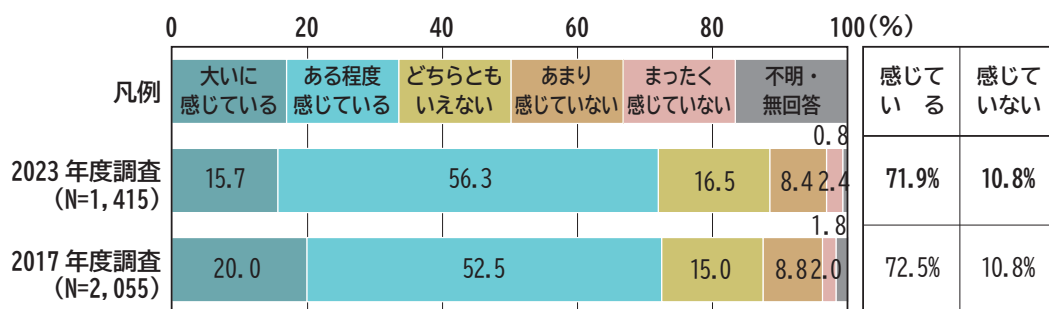
### ③ まちづくりへの市民の評価

#### 1) 市民

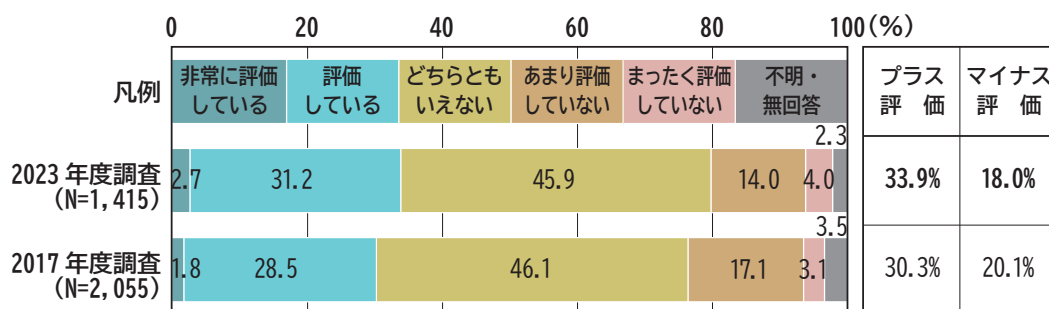
市民アンケートによる市民の意識では、木津川市に『愛着を感じている』割合が71.9%と、平成29（2017）年度調査とほぼ同程度となっています。

また、道路や都市計画などのまちづくり施策及び福祉、教育、医療などの市民サービスについては、平成29（2017）年度調査よりも『プラス評価』の割合が高くなっています。

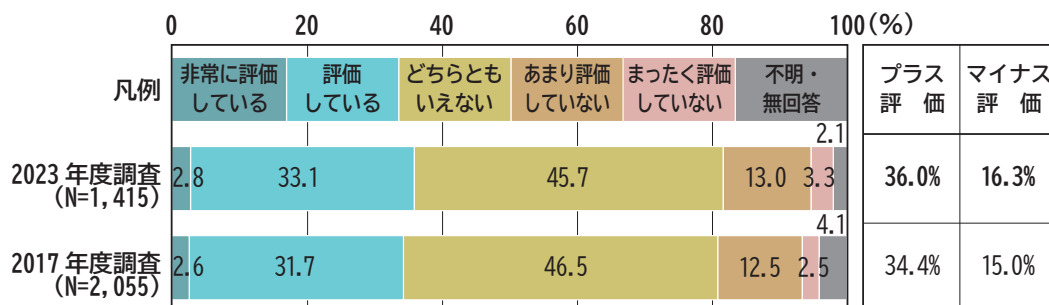
設問 木津川市に愛着を感じていますか



設問 木津川市が進めてきたまちづくり（道路整備、都市計画、産業、観光など）についてどう思いますか



設問 合併後の木津川市の市民サービス（福祉、教育、医療など）についてどう思いますか



＜市民アンケート調査の概要＞

調査対象者：18才以上の市民（外国人含む）5,000人を、住民基本台帳\*から無作為抽出  
 調査方法：郵送にて調査票を配布、郵送回収・WEB回収を併用  
 調査期間：令和5（2023）年7月7日（金）～7月28日（金）  
 有効回収数（回収率）：1,415件（28.3%）

「全体的にみた木津川市の暮らしやすさ」は約64%の人が『満足』と回答しており、平成29(2017)年度調査よりも評価が上昇しています。また、分野別では「下水道整備・水洗化の状況」、「身近な緑、山や川の自然の保全」、「まちなみやまちの雰囲気」などの満足度が特に高くなっており、平成29(2017)年度調査と比較すると、26項目中23項目で評価が上昇しています。

### 設問 木津川市の暮らしやすさについて、日頃どのように思いますか

凡例	0 20 40 60 80 100 (%)						加重平均				
	満足	ほぼ満足	どちらとも言えない	やや不満	不満	不明・無回答	満足	不満	今回2023	前回2017	差
(1) 全体的にみた木津川市の暮らしやすさ	9.4	54.7	21.3	9.6	2.7	2.3	64.1%	12.3%	3.60	3.33	0.27
(2) 生活道路の便利さ	7.6	40.2	24.9	18.9	6.3	2.2	47.8%	25.2%	3.24	3.07	0.17
(3) 通勤・通学の交通の便利さ	6.2	28.0	24.9	25.1	13.1	2.7	34.2%	38.2%	2.89	2.80	0.08
(4) 買い物の便利さ、快適さ	15.1	42.9	17.6	14.9	7.4	2.0	58.0%	22.3%	3.44	3.08	0.36
(5) 下水道整備・水洗化の状況	23.3	46.1	20.2	5.0	3.7	1.7	69.3%	8.8%	3.81	3.76	0.06
(6) 公園や子どもの遊び場	8.0	31.2	33.8	17.4	7.1	2.5	39.2%	24.5%	3.16	3.12	0.04
(7) ごみの減量化やリサイクルの取組み	7.8	40.5	38.0	9.0	3.2	1.4	48.3%	12.2%	3.41	3.33	0.08
(8) スポーツ、レクリエーションの場や機会	2.4	18.8	55.1	15.6	5.9	2.2	21.2%	21.5%	2.96	2.91	0.05
(9) 保健、健康づくりのためのサービス	3.4	28.6	49.8	12.5	3.7	1.9	32.0%	16.3%	3.16	3.07	0.09
(10) 病院、診療所の利用のしやすさ、サービス	4.6	34.2	31.2	21.9	6.4	1.6	38.8%	28.3%	3.09	3.01	0.07
(11) 保育、子育てを支援するサービス	3.1	22.3	56.6	10.3	4.0	3.7	25.4%	14.3%	3.11	3.09	0.02
(12) 高齢者・障がい者の福祉援助	2.2	19.4	59.7	12.8	4.0	1.9	21.6%	16.7%	3.03	2.94	0.09
(13) まちなみやまちの雰囲気	10.2	45.3	30.0	10.0	3.1	1.4	55.5%	13.1%	3.50	3.38	0.13
(14) 歴史・文化遺産の保全	6.1	39.1	45.2	6.1	1.3	2.1	45.2%	7.4%	3.44	3.36	0.07
(15) 身近な緑、山や川の自然の保全	9.7	45.9	32.7	7.4	2.6	1.7	55.6%	10.0%	3.54	3.36	0.18
(16) 地域の歴史や文化とのふれあい活動のための環境	4.2	27.1	54.1	10.2	2.0	2.5	31.2%	12.2%	3.22	3.18	0.04
(17) 教育・学習や文化活動のための環境	4.0	24.8	52.7	12.0	3.7	2.8	28.8%	15.8%	3.14	3.14	▲0.01
(18) 小・中学校の教育	4.7	25.2	51.4	10.5	4.2	4.0	29.9%	14.7%	3.16	3.20	▲0.03
(19) 近所とのつきあい、地域の社会活動	4.0	29.3	50.2	12.2	2.8	1.6	33.2%	15.0%	3.20	3.21	▲0.02
(20) 人権の尊重、男女共同参画の促進	2.8	19.5	66.6	6.9	1.7	2.4	22.3%	8.6%	3.15	3.14	0.02
(21) 地震、火災、水害などに対する防災対策	3.7	30.1	47.7	12.9	3.9	1.7	33.8%	16.8%	3.17	3.02	0.16
(22) 防犯や交通安全対策	2.5	26.4	48.9	16.0	4.3	1.8	28.9%	20.4%	3.07	2.95	0.12
(23) 雇用の場や就業の機会	12.4	57.0	18.8	6.9	3.3	1.7	14.1%	25.7%	2.83	2.72	0.11
(24) 農林業、商業、観光業の振興	13.6	58.2	18.4	5.2	3.1	1.5	15.1%	23.6%	2.87	2.81	0.07
(25) 関西文化学術研究都市を活用した産業の振興	12.7	59.4	17.2	6.1	3.0	1.7	14.4%	23.3%	2.86	2.78	0.09
(26) 市役所からの情報発信	4.2	36.0	40.6	13.6	4.0	1.7	40.2%	17.5%	3.23	3.12	0.12
(27) 行財政改革の推進による財政状況の改善のための取組み	12.6	61.9	15.2	5.7	3.0	1.6	14.1%	20.9%	2.89	2.85	0.04

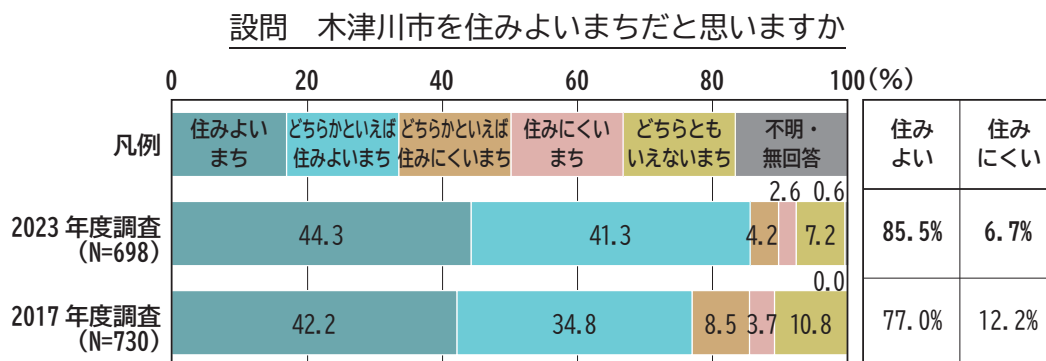
※加重平均 = ( [満足]\*5点 + [ほぼ満足]\*4点 + [どちらとも言えない]\*3点 + [やや不満]\*2点 + [不満]\*1点 ) / 不明・無回答を除く回答件数

注) 小数第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。  
また、2つの選択肢を集約した場合(「満足」と「ほぼ満足」を合計した『満足』など)は、該当選択肢の回答数の合計から算出しているため、該当選択肢に表示している小数第1位までの百分率(%)の合計と一致しない場合があります。

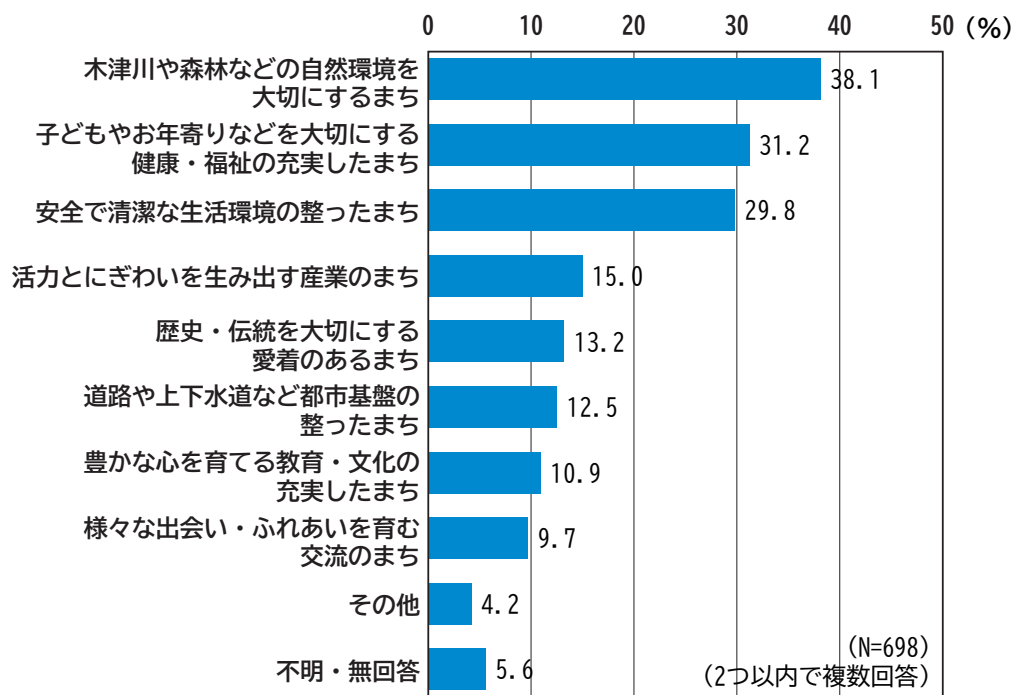
## 2) 中学生

中学生アンケートによる中学2年生の意識では、「住みよいまち」と「どちらかといえば住みよいまち」を合わせると約86%が『住みよい』と感じており、平成29(2017)年度調査よりも『住みよい』と思っている割合が高くなっています。

また、自分が市長になったらどのようなまちにしたいかについては、「自然環境を大切にすまち」が最も多く、以下「健康・福祉の充実したまち」、「安全で清潔な生活環境の整ったまち」と続いています。



設問 もし木津川市の市長になったら、どのようなまちにしていきたいと思いませんか (2つ以内)



＜中学生アンケート調査の概要＞  
 調査対象者：市立中学校に通学する中学2年生 全員  
 調査方法：学校を通じて調査票を配布・回収  
 調査期間：令和5(2023)年6月16日(金)～7月7日(金)  
 有効回収数(回収率)：698件(91.5%)

注) 小数第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。  
 また、2つの選択肢を集約した場合(「住みよいまち」と「どちらかといえば住みよいまち」を合計した『住みよい』など)は、該当選択肢の回答数の合計から算出しているため、該当選択肢に表示している小数第1位までの百分率(%)の合計と一致しない場合があります。



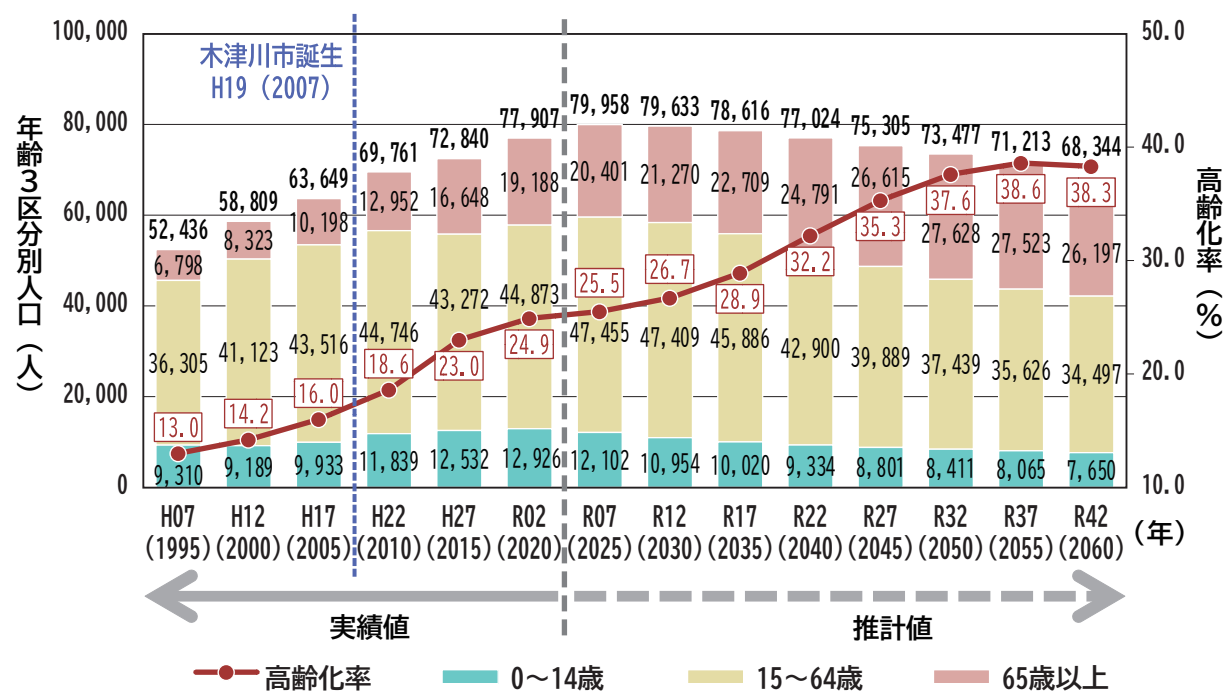
### (3) 木津川市を取り巻く環境変化への対応

#### ① 将来の人口動向を見据えたまちづくりの必要性

木津川市が誕生した平成 19（2007）年 3 月 12 日現在の人口は、66,490 人でしたが、その後、学研地区の宅地開発などを背景とする人口流入により順調に増加を続け、令和 4（2022）年 9 月には 8 万人に達したものの、その後横ばいから減少に転じるなど、転換期を迎えています。

将来人口（令和 5（2023）年推計）をみると、今後は緩やかに減少し、高齢化率も徐々に上昇を続け、令和 22（2040）年には 30%を超えることが予測されます。

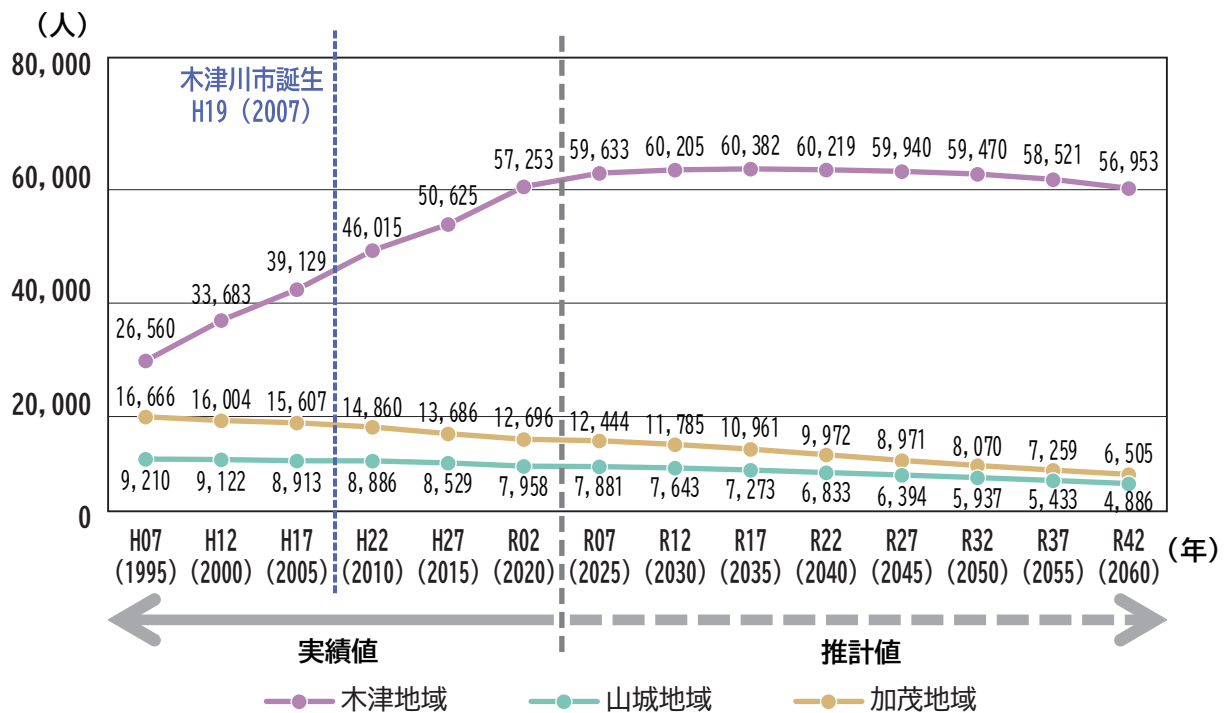
年齢 3 区分別人口と高齢化率の推移（実績値と将来推計値）



資料：実績値「国勢調査結果」（総務省統計局）、推計値は令和5年（2023年）市推計

地域別の将来人口の推移をみると、「木津地域」では令和 17（2035）年頃まで人口が増加すると見込まれるのに対し、「加茂地域」と「山城地域」では減少が続くなど、人口の地域偏在が予想されます。

地域別人口の推移（実績値と将来推計値）



資料：実績値「国勢調査結果」（総務省統計局）、推計値は令和5年（2023年）市推計

国全体において高齢化・人口減少が進むのにやや遅れて、木津川市でも高齢化・人口減少が進展していくことが予想されます。今後の木津川市においては、この人口動向を前提として、まちづくりに取り組む必要があります。

## ② 環境の変化への対応

### 持続に向けた政策の転換

我が国の人口は、既に減少に転じており、出生数の減少や急激な高齢化により、世界が未だかつて経験したことのない超高齢社会を迎えようとしています。

木津川市においても、令和4（2022）年に人口80,000人に達した後、横ばいから減少に転じる見込みとなっており、令和4（2022）年4月に加茂地域が過疎地域\*に指定されるなど、地域によっては、予想を上回る速さで人口減少が進んでいます。

このまま人口構造の変化が続くと、地域活力の低下、税収不足、医療・社会保障費の増大による行政サービス水準の低下、介護や子育ての生活不安の増大及び地域文化や伝統産業の衰退など、地域社会・生活のあらゆる面に大きな影響を及ぼすことが懸念されることから、人口減少局面への移行を見据え、行政経営の効率化・最適化を図るなどして持続可能なまちづくりを進めていきます。

### 子育て、若者定着に向けた手厚いサポート

急激な人口減少・少子化社会への突入に対して、国において、令和5（2023）年4月に「こども家庭庁」が発足し、こどもや若者が自分らしく健やかに幸せに成長できるよう社会全体で支えていく方針が示されました。

木津川市においても、子育て支援No.1のまちを目指し、総合戦略の柱を「子育て」に据え、子育て・子育てのまちづくりを一層充実させることとし、子育て支援に取り組んできました。

直面する人口減少、少子化の進行を抑制するため、住む、学ぶ、働く、子育てなどの環境が、豊かに備わった生活が実現できるまちを目指し、地域の魅力を活かした居住環境の整備や仕事づくりを進めるとともに、子育てに関する将来への不安を和らげ、出産から子育てまでの支援のさらなる充実に向けて、地域と連携し、若者や女性が活躍し、子育てしやすいまちづくりを進めていきます。

### 価値観やライフスタイル変化に応じた、つながり、コミュニティ\*の構築

共働き世帯の増加や新型コロナウイルス感染症による働き方の変化、外国人居住者の増加、ジェンダー平等の取組みなど、価値観やライフスタイル、男女の役割分担の変化への対応が求められています。高齢化による単身世帯の増加に伴い、高齢者や支援が必要な人が地域社会とつながり、孤立しない体制づくりも必要です。

性別や年代にかかわらず、多様な価値観や文化、ライフスタイルを互いに認め、尊重することで、気軽に楽しくつながることができる関係づくりや、一人ひとりの個性と能力が発揮できるコミュニティづくりによって、すべての世代が安心して健やかに暮らせるまちづくりを進めていきます。

## 市民の生命・財産を脅かすリスクへの対応

---

近年、猛暑や局地的豪雨災害、震度4以上の地震災害などの自然災害が多発しており、南海トラフ地震発生への懸念も高まっているなか、木津川市においては、河川の氾濫、山地からの土砂流出などの恐れがあり、自然災害への対策が急務となっています。また、凶悪犯罪、新たな感染症、食の安全問題に加え、詐欺被害やSNS\*上での人権侵害など人々の暮らしを脅かす問題も多様化しています。

市民の安心・安全のため、災害に強い都市基盤の整備を進めるとともに、地域の防災・防犯力を向上し、自助、共助、公助\*の精神により互いに連携できる仕組みづくりを進め、日々の暮らしを守るまちづくりを進めていきます。

## 地域の魅力の再発見・再価値化・再構築による誇りや交流活動の醸成

---

新型コロナウイルス感染症による渡航規制で一時は訪日外国人観光客が落ち込みましたが、インバウンド\*観光は徐々に回復基調にあります。また、国内観光においても旅行ニーズは多様化し、農家民宿や民泊など地域が持つ自然や文化、暮らしなどを観光の対象とする動きが活発化しています。

平成27(2015)年に、宇治茶とその文化的景観が、日本遺産\*第1号「日本茶800年の歴史散歩～京都・山城～」に認定され、木津川市を含む府南部の12市町村にて、宇治茶をテーマに、お茶生産の美しい景観維持やお茶産業の振興、お茶文化の発信などに取り組む「お茶の京都」が、展開されています。

令和5(2023)年4月には文化庁が京都府に移転したことを契機に、京都府とともに史跡恭仁宮跡の特別史跡昇格に向けた取組みをさらに推進するとともに、歴史的・文化的遺産、自然風土、宇治茶をはじめとする農産物やものづくり産業など、豊富な資源を活かし、交流や地域産業の活性化、ひいては地域への愛着の醸成につながる地域づくりを進めていきます。

## 広域的立地環境を踏まえた地域の仕事、暮らし、文化づくり

---

我が国では、グローバル化\*が進展し、国際競争が激化するなか、産業競争力が後退しつつあるといわれる一方で、高い技術力を持つ中堅・中小企業が多く存在し、それらの活性化が、地域経済のみならず日本経済全体の再生にも寄与することが期待されています。

木津川市においては、広域交通ネットワークの向上などの地理的優位性や関西文化学術研究都市\*の中核地としての強みなどを活かし、研究所・企業立地や住宅開発が進んでいますが、今後は、最先端の学術研究や科学技術と市内の商工業や農産物、市民生活との結びつきを強め、地域の強みを活かしたスタートアップ\*企業の集積や雇用を創出するとともに、多様な働き方を選択できる社会づくりを進めていきます。

## 地域特性・課題に応じた都市の最適化、スリム化で持続的なまちづくり

高度経済成長期以降に整備された社会資本の老朽化による維持管理・更新費用の増大、高齢化による介護・医療費の増加などで社会保障費が増大する一方、人口減少による税収の減少により、財政状況のさらなる悪化が予想されています。

木津川市では、令和4（2022）年度の将来負担比率\*2.5%と国が定める基準を下回っており、健全財政を維持していますが、社会インフラの老朽化、また、過去の大規模事業の財源として発行した市債の元金償還の本格化により、公債費が大きな負担となっています。

子や孫の世代に健全財政を引き継ぐため、市民、行政が協力し、将来を見据えた行財政改革や公共施設の最適配置など、さらなる効率化を進めていきます。

## 脱炭素\*社会の実現に向けた環境に配慮した循環型のまちづくり

近年、各地で多発する大規模自然災害は、地球温暖化に起因する気候変動によるものと考えられており、今後、さらなる頻発化・激甚化が懸念されています。私たちの生命をも揺るがす気候変動問題に対応するために、国において「2050年カーボンニュートラル\*」の実現に向けた対策が進められています。

木津川市でも、令和4（2022）年3月に「気候非常事態・ゼロカーボンシティ\*宣言」、令和6（2024）年2月に「デコ活宣言\*」を行うなど、地球温暖化対策の推進を掲げており、脱炭素社会の実現に向けた環境に配慮した循環型のまちづくりを強化した取組みを進めていきます。

## ICT\*技術を活用した効率的で人にやさしいまちづくり

人々の生活のなかで、デジタルツールが生活インフラとして定着するなか、新型コロナウイルス感染症のまん延をひとつの契機として社会全体でICT技術活用が急加速しています。また、今後一層、人口減少・少子高齢化が進展する状況下で、人々が安心できる生活が確保され、ひいては、社会全体が発展し続けるためには、ICT技術を有効活用することが不可欠となっています。国においては、令和5（2023）年6月に「デジタル社会の実現に向けた重点計画」が閣議決定され、行政サービスのデジタル化など安全・安心を前提とした「人にやさしいデジタル化」の推進を進めています。

木津川市においては、令和2（2020）年に「スマート化宣言」を行い、先端技術やビッグデータ\*の活用による「スマート」な市政運営を行い、持続的発展性のあるまちづくりを戦略的に進めることとしています。市民サービスの向上、市内産業競争力の強化、効率的な行政運営の推進に向けて、さらなるデジタルの力を活用した取組みを進めていきます。